



学校だより

6月号

横浜市立瀬谷さくら小学校

校長 場家 誠

学校教育目標 「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」

- (知) 困難なことにもあきらめずに挑戦する子に育てます。
- (徳) 物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子に育てます。
- (体) 自分や人の命を大切にする子に育てます。
- (公) 小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子に育てます。
- (関) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子に育てます。

「ツバメが低く飛ぶと雨」

副校長 阪元 秀一

3年目を迎えました。副校長の阪元です。まさか3年目もいいと言われると思っていませんでしたので、感激もひとしおです。今年度もみなさんのお力をお借りしながら、精一杯明るく楽しく穏やかに副校長らしからぬ副校長でいたいと思います。あと3回は巻頭言を許されたので、瀬谷さくらのことを思いつつ、自分の経験や趣味を交じえて、読みやすい文章にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

さて、5月になり、瀬谷さくらの町にもツバメがやってきました。毎年この時期になるとすっかりやってくるのはすごいなあと感じます。「ツバメが低く飛ぶと雨」、てことは梅雨もやってくるなあと思ったものです。瀬谷さくらの子たちは何せ外遊びが好きですから、雨は少し困るなあ。と思ったものです。発散させる場が減ります。頭が痛くなったり、体や気持ちが調子悪くなる人もいます。少しマイナスなイメージです。ぬれるのもイヤです。

しかし、日本には、雨にまつわることわざ、慣用句、短歌、俳句、詩、小説、歌謡曲、たくさんあります。雨は言葉の宝庫です。雨を表す言葉も諸外国とは比べ物にならないくらいたくさんあります。「雨降って地固まる」「千天の慈雨」「雨後の竹の子」「五月雨を集めて早し最上川」「はじまりはいつも雨」、これらを考えると雨に対するイメージは元々そんなに悪くないようにも感じます。

雨はきっと、体を休め、ボーとし、時には物事を深く考え、気持ちを切り替えるチャンスなのかもしれません。

ツバメが低く飛ぶのは、「エサである昆虫が気圧の低下で飛ぶ揚力が低下し、上空での気流の乱れとも相まって低く飛ぶことになり、結果的にそれを追うツバメも低く飛ぶ。」のだそうです。それをなんとなく長いこと見てきた昔の人が、「ツバメが低く飛ぶと雨が降る確率が高い。」と気づいて誰かに言ったということです。こういうことを気付ける人になりたいですし、発信できる人になりたいですね。

雨の言い伝えでも科学的根拠を追っていくと面白いものです。 arīもカエルも猫も気圧の低下で落ち着かなかったり、雨に備えていたりすることから雨が降るのが分かるのもしれません。

阪元も、雨での過ごし方を考えて、発信していきたいと思います。読書やお絵かき、ぬり絵はもちろん、何もせずにぼーっと外を眺めたり、いろんな動植物や人を観察するのもいいですね。あまり何か見つけてやろう、何か実になることをやってやろうって考えてもうまくいきそうにはありません。何せ雨ですから。「境川の水かさが増えて流れが急だから、カルガモはどうしてるかしら。」って思いをはせるくらいがちょうどよさそうです。

阪元はやる気満々で興奮気味に廊下を走っている子たちに「走らない!」と言わずにこう言うことにします。「いろんな人とあっち向いてホイでもしよう。何勝できるかな。」思わぬ出会いがあるのもしれません。だって、そういう子たちはきっと何勝もしたいですから。あ、「雨の日鉄道倶楽部」もいいな。勝手に開こ。相談室借りとこ。